

中学校

平成 17 年 度

# 教育研究員研究報告書

美

術

東京都教職員研修センター

## 研究主題

「心が躍る楽しい美術～個性を生かす指導と評価～」

## 目次

I	主題設定の理由	2
II	研究のねらい	
III	研究の方法	
IV	研究の仮説	
V	研究の全体構想図	3
VI	授業による研究	
	i 色鉛筆を使ったデッサン「自分よりも自分らしい自画像」	4
	ii 木彫「家紋」	10
	iii 映像・写真「撮影・現像・鑑賞美術館体験」	16
VII	研究のまとめ	22

## 研究主題 「心が躍る楽しい美術 ～個性を生かす指導と評価～」

### I 主題設定の理由

美術を愛好していくための資質や能力を確かなものにするためには、学ぶ意欲とともに表現及び鑑賞の能力の確実な定着を図ることが求められる。そして、生徒の実態等を十分踏まえた上で、創意工夫を生かした特色ある取組を一層推進していく必要がある。そのためには、「個に応じた指導の一層の充実」を図ることが大切である。

しかし今日、生徒の一部には「受け身の姿勢が強く、自ら表現できない」「手作業の経験が少なく、技術が身に付いていない」「飽きやすく、根気強さがない」などの実態がみられる。そして、これらは、美術の授業に対するマイナス・イメージにもつながっている。

そこで本研究では「個性を生かす指導と評価」という視点から授業改善を図り、生徒全員が「We Love Fine Arts！」と、心から喜ぶことができる美術の授業を目指すことをねらった。そのためには、共通テーマ「個に応じた指導の一層の充実」を踏まえ、生徒が心を躍らせ、楽しく、いきいきと表現活動に取り組むことのできる、授業内容・授業方法を研究する必要があると考え、本主題及び副題を設定した。

### II 研究のねらい

研究を進めていく中で、生徒たちが以下のような体験をした時に「心を躍らせ、楽しく、いきいきと表現活動に取り組む」ことができるのではないか、という仮説を立てた。

- i 個性を発揮し、それが認められた時
- ii 技術が向上し、よりよい表現ができるようになった時
- iii いろいろな経験を通して、視野が広がった時

個性を発揮するためには、技術が身に付いていなければ思いどおりに表現できない。しかし、技術向上だけの授業では楽しくない。さらに、いろいろな経験を通して表現の幅を広げることができる。このように、三つの柱はそれぞれに関連し合うものであることに留意したい。

### III 研究の方法

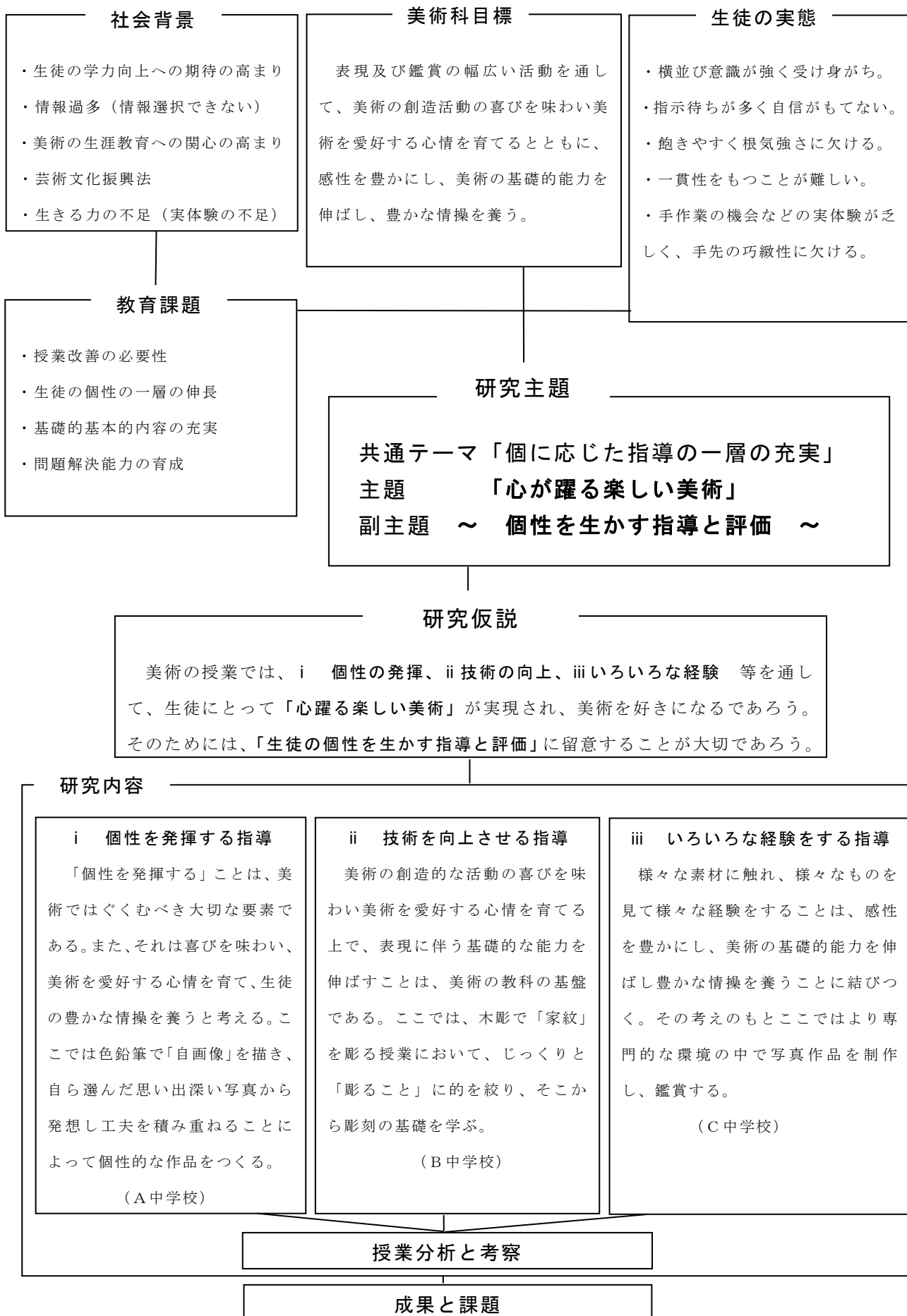
実践的研究として、仮説をもとに「美術を好きになる」ための適切な題材、授業時における教師の指導の在り方、効果的な評価を工夫し学習指導案を作成する。そして、検証授業を実施し、生徒の変容を調査、確認、分析することにより、研究仮説の有効性について検証する。

### IV 研究の仮説

個性を発揮し、それが認められるという経験、自分の技術が向上したという実感、美術に対するイメージが変わるような様々な経験。美術の授業において、これらの実体験が「美術を好きになる」きっかけになると考え、以下のような研究仮説を立てた。

研究仮説 「美術の授業では、i 個性の発揮、ii 技術の向上、iii いろいろな経験 等を通して、生徒にとって『心が躍る楽しい美術』が実現され、美術を好きになるであろう。そのためには、生徒の個性を生かす指導と評価に留意することが大切であろう。」

## V 研究の全体構想図



## VI 授業による研究

### i 色鉛筆を使ったデッサン「自分よりも自分らしい自画像」（第3学年 6時間）

#### 1 題材設定の理由

個性を発揮した表現は「自分らしい表現」ともいえるが、そのような表現が達成されるためには、自らのイメージや気持ちを、他者に伝えられる技術が必要である。

しかし、技術の習得を重視した授業では、表現の喜びを感じさせることが難しい場合もある。

そこで、生徒が自らの思いを、直接的に表現できるような環境を整え「自分らしい表現（個性を発揮した表現）をすることの喜び」を味合わせることも必要である。

本題材では「自分よりも自分らしい」自画像を描くことをテーマとする。モチーフは、生徒が生まれてから現在までで最も気に入った写真とする。

多くの思い出が詰まった写真から、その頃の自分を思い出し想像することを通して、柔軟な発想を引き出すようにする。写真をそのまま描いてもよいが、服装、髪型、表情、ポーズ、色彩等を自由に変化させてみたり、自分の将来の姿を想像して描いたりしてもよい。

生徒が自由に色彩や表現方法を選択する機会を増やすことにより、自ら考え工夫し表現する姿勢を育てる。そして、自分らしい表現をすることを通して、達成感や自己肯定感を体感させる。さらに自らをモデルとすることにより「自らがかけがえのない存在である」ということへの理解を深めさせる。

「自らがかけがえのない存在である」という認識は、自分自身の存在に自信をもたせる。そして、自己の個性は普遍的で尊重されるべきものであること、個性を表現することは自然なことであることを理解させる。さらに、自分自身の個性をより多くの人に伝えることにより意欲を喚起する。

これらの取組を通して生徒が個性を発揮し、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

#### 2 題材の目標

- ・ 線で描くデッサンの方法の理解を確かなものとし、色鉛筆を使って表現の工夫ができる。
- ・ 持参した写真をもとに、思いのままに構想を練ることができる。
- ・ 意図をもった工夫を積み重ねることによって、効果的な画面を構成できる。
- ・ 鑑賞会を通して、他の生徒のよさを認め、自らの作品に生かすことができる。


#### 3 育てる資質・能力


- ・ 用具を効果的に活用する力
- ・ 自らの思いを自由に構想する力
- ・ 技術向上に対する意欲
- ・ 他者の個性を認め、また自らも個性的で効果的な表現を生み出そうとする力

#### 4 本題材における指導の流れと評価計画

本題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想と構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
構想・技巧・工夫に対する関心をもち意欲的な制作活動ができる。集中力と向上心を持って授業に取り組むことができる。	モチーフを参考にし、独自の発想をもとに、完成を見通し、効果的な構想を練ることができる。	基本的な表現方法の理解をもとに、色の濃淡による明暗・効果的な彩色ができる。	自ら制作意図を説明することができ、他の作品の効果的な表現を認め、分析することができる。

#### 指導と評価の計画（6時間）


	主な学習活動	評価計画				
		評価規準・評価方法	関心	発想	技能	鑑賞
導入	①思い出に残る写真を持参し、それをモチーフとしてアイデアスケッチをする。 ・ポーズ、服装等を自由に考える。 ・画面のバランスを考えながら構想を練る。	・意欲的にアイデアを生み出すことができる。 ・画面のバランスを考え、構想を練ることができる。 <b>【アイデアスケッチ】</b>	○	○		
	②色鉛筆を使用したデッサンの練習 ・線を用いて立体を表す。 ・色を混ぜる練習 ・効果的な表現方法の練習	・線を用いて立体的な表現ができる。 ・色相の工夫によって効果的な表現ができる。 <b>【アイデアスケッチ】</b>	○		○	
展開	①下絵 ・アイデアスケッチをもとに下絵を描く。	・バランスの良い構成ができる ・輪郭線を丁寧そして正確に描くことができる。 <b>【作品】</b>	○	○		
	②彩色 ・色鉛筆を使用したデッサンを行う。 	・色鉛筆を効果的に使い立体感を表現することができる。 ・仕上がりを見通した配色により効果的な表現ができる。 <b>【作品】</b>	○		○	

<p>展 開</p>	<p>・毎時間、班ごとに鑑賞会を行う。</p> 	<p>・描く方法の工夫によって個性的な表現ができる。</p> <p style="text-align: center;">【作品】</p> <p>・制作意図を発表できる。</p> <p>・効果的な表現を認め、制作に活かすことができる。</p> <p style="text-align: center;">【ワークシート】</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>
<p>ま と め</p>	<p>①制作カードの記入</p> <p>・カードに場面の設定、制作意図、感想を記入し、次の制作活動への意欲を喚起する。</p> <p>②鑑賞カードの記入</p> <p>・他の生徒作品のよさや工夫を記入する。</p>	<p>・作品の客観的な分析ができる。</p> <p style="text-align: center;">【制作カード】</p> <p>・他の生徒作品のよさや工夫を理解することができる。</p> <p style="text-align: center;">【鑑賞カード】</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>

## 5 単位時間の指導と評価

本時の目標： ①色鉛筆を効果的に使い立体感を表すと共に意欲的な工夫ができる。  
②他の生徒作品のよさや工夫を理解する。

<p>主な授業内容</p>	<p>評価規準と指導</p>
<p>・前回の授業内容を確認する。5分</p> <p>・鑑賞会（班単位）：制作意図の発表。他の生徒作品のよさや工夫をワークシートに記入する。10分</p>	<p>〔鑑賞の能力〕</p> <p>・制作意図を発表できる。</p> <p>・効果的な表現を認め、制作に活かすことができる。</p> <p style="text-align: center;">【授業観察・ワークシート】</p> <p>〔評価規準〕</p> <p>○十分満足できる</p> <p>・客観的な見方・考え方ができる。</p> <p>○おおむね満足できる</p> <p>・意欲的な取り組みができる。</p>

<p>・彩色（色鉛筆を使用したデッサンを行う）</p> 	<p>【創造的な技能】 <span style="float: right;">【授業観察・作品】</span></p> <p>〔評価規準〕</p> <p>○十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色鉛筆を効果的に使い立体感を表現することができる。</li> <li>・仕上がりを見通した配色により効果的な表現ができる。</li> <li>・描く方法の工夫によって個性的な表現ができる。</li> </ul> <p>○おおむね満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色鉛筆を使い立体感を表現することができる。</li> <li>・仕上がりを見通した配色によりバランスの取れた表現ができる。</li> <li>・描く方法の工夫によって効果的な表現ができる。</li> </ul> <p>&lt;努力を要する生徒への手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業効率を考えず、基本的な表現方法を実際にやって見せるなどの方法を用いて、粘り強い援助を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・顕著な成果が見られた生徒の作品を紹介する。</li> <li>・本時の制作のまとめと次回の制作の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な表現方法、個性的な表現に着目した説明を行う。</li> <li>・意欲的な制作姿勢が、効果的な表現を生み出すことを伝える。</li> </ul>

## 6 考察と課題

### (1) 題材と学習活動

「自画像」という題材は、生徒が自分自身の姿を描くということから、恥ずかしさから、なかなか制作が進まないことがある。そこで本題材では、モチーフを思い出の詰まった写真に設定することにより、自らの直接的な姿から一定の距離をおき、客観的に観察させることが可能になり、集中して制作活動に取り組ませるようにした。

写真を見て制作することについては、現物と違い質感等を表現し難いという欠点はある。しかし、輪郭線を描いた後、鏡を見てデッサンするなどの工夫によって補充することも可能と考え、なかなか形が取ることができない生徒に対しては、鏡を使用してデッサンをする指導を実施した。

班ごとに実施した鑑賞会では、発表者が工夫した点だけでなく頑張った点も見付けようという声掛けによって鑑賞カードの記入が容易になり、すべての生徒がよさを見つけプリントに記入し、それを伝える経験をさせた。



## (2) 教師による評価と支援

評価については、学習指導案に計画した評価規準によって、指導と評価の一体化を図ることの重要性が分かった。とりわけ、作品の立体感やバランス、美しさなど、学習への意欲や工夫をよく見とる必要がある。単に完成作品の優劣だけで比較することのないよう、授業中の学習活動における工夫や意欲を、的確に把握する評価計画が重要である。

本題材では、まず、技術面が一定の水準に達していない生徒に対する実践的な指導を重視する必要があると考えた。なぜなら、個性的な表現によって満足感を得るためには、自らの表現意図を自由に伝えるための基礎的な技術がなければ、意欲を保つことが難しいからである。

次に重視したのは、多くの表現方法を生徒に提示し工夫しやすい環境を整えることであった。

「自分らしい表現」とは、少しの工夫の積み重ねでできるということ、生徒に気付かせることは難しくない。しかし、実際に表現するためには、適切な実践例による導入が必要である。また、生徒が気軽に、いろいろな方法を試してみる雰囲気づくりも大切である。

本事例では、これらの支援により、前課題よりも意欲的に取り組む生徒が増えた。そして生徒には技術を獲得し、様々な表現を試したいという欲求があることが分かった。

## (3) 成果

個性的な表現を生徒に体験させ「個性を発揮させる」というテーマについては「個性的な表現とは工夫することである。」ととらえる生徒が数多く見られた。生徒たちは工夫することの重要性を理解し、工夫を積み重ねることで得られる達成感や充実感を体感させることができた。

デッサンの方法の指導については、多くの生徒が1年次の授業で基礎的な技術を身に付けており、色鉛筆の色の違いによる表現方法、タッチの工夫等、発展的な指導が可能であり、3年間を通した系統的な指導の重要性を再確認することにもつながった。

鑑賞会における学習では、多くの生徒がクラスメートから評価され自信をもつことができた。また「自発的な工夫」について、ワークシートへの記載内容から成果があったことが分かった。

これらの成果から、「個性を発揮させる」授業が、生徒にとって「心が躍る楽しい美術」を実現し、美術を好きになることにつながったと考える。

## (4) 課題

今回は、想定した以上に生徒の意欲が高く、個別の指導を求める生徒がみられ、効率よく多くの生徒に対応する上でも、教材研究の重要性を再確認した。

多数の生徒が同時に制作をする環境では、集中して制作が難しい状況もみられるが、集中できる雰囲気づくりは、授業計画の段階から重視していく必要がある。

言葉かけのタイミングについては、授業者があまり細かく指導しすぎると、自由に記入したり発言したりする意欲を阻害することも分かった。ポイントとなる事項に絞ってタイミングよく話し、後は我慢強く生徒自身の活動を見守ることが、主体的な美術の能力を育てることにつながると考える。

今後の課題としては、より効果的な実践例を提示できるように、作例の数を増やしたり、言葉かけの方法を工夫したりする必要があることが分かった。また、評価規準や評価方法の改善により評価への信頼性を高め、生徒の個性を生かすことが課題である。



## 7 資料

3年美術 ワークシート No.2 自分よりも自分らしい「自画像」3年 組 番氏名  
個性的な表現（自分らしい表現）

びっくりするような表現だけでなく、ほんの少しの工夫、それ自体が個性的な表現です。

\* 発表者名

発表メモ

\* 個性的な工夫が見られたところ（どこの部分がどう工夫されていますか。）

友達のをさを見つけよう！

## VI 授業による研究

### ii 題材名 木彫「家紋」（第1学年 16時間）

#### 1 題材設定の理由

思い描いたものを形や色で表現するのが美術の活動であるが、いくら発想があってもそれを実現させる技術がないことにより、表現の楽しさを味わえないことは多い。思いどおりのものを作り上げたときの喜びはこの上なく、美術の授業の原点ともいえるのではないだろうか。今回は技術向上の大切さを見直して木彫の授業を考えた。

ほとんどの生徒が、小学生の頃に彫刻刀を使用した経験をもつが、いざ授業を行うと、

- ・彫刻刀の名称を知らない
  - 説明を聞いても分からない
- ・丸刀や三角刀だけで版画のように線彫りにする
  - 表面的な彫りになる
- ・切れない彫刻刀を使っている
  - 危険、彫りが進まず面白くない
- ・仕上げで不透明絵の具を使用したり、ニスでテカテカに仕上げている
  - 木本来が持つ優しく暖かい味わいを知らない

という生徒が多い現状がある。

細かい作業があまり得意でない生徒でも、木彫では、時間をかけて取り組むことで味わいのある美しい作品ができる。じっくりと「彫ること」に的を絞り基礎から身に付けさせたい。彫ることに集中し丁寧に仕上げることで、木という素材の良さに気付かせたい。その上で発展的な題材（用途のあるものやノコギリなどを使用するもの）につなげ、木材を加工することの楽しさに触れさせたい。

本題材では、厚さ 13mm 丸型の桂材に「家紋」を彫る。「家紋」は我が国に古来より伝わる日本の伝統的な意匠であり、普段から目にすることも多い。バリエーションが多く、デザインのヒントにもなりやすい。生徒の中には、構想の段階でつまずきがちな傾向もみられるが、「家紋」の伝統的なデザインを活用することにより、限られた時間の中で、木彫に適したシンプルなデザインを決めることができる。そこで「家紋」を彫刻の基礎を学ぶのに適切な対象と考えた。

そして、この取組を通して生徒の技術が向上し、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

#### 2 題材の目標

木彫の基礎基本を重点的に習得する本題材の目標は以下のとおりである。

- ・ 彫刻刀を安全に使用し、そのデザインに応じた様々な彫り方ができる。
- ・ 木材の持つ味わいや特性を生かした作品作りができる。
- ・ 自他の作品を鑑賞することを通じてより質の高い作品作りに生かす。

### 3 育てる資質・能力

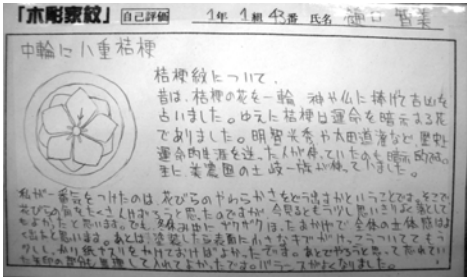
- ・ 日本古来より伝わるデザインの知識と理解
- ・ 素材や用具を活用する技能
- ・ 素材を生かしたデザインを構想する力
- ・ 自他の作品の良さに気付く鑑賞力
- ・ 上記をひとつひとつ達成した上で得られる創造の喜びを感じる心

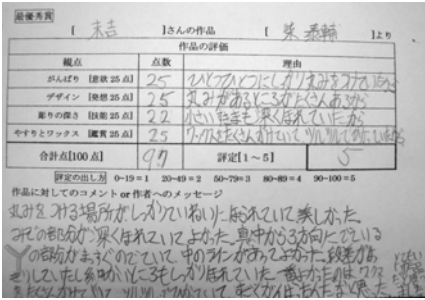
### 4 本題材における指導の流れと評価計画

本題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
彫刻刀の技法と木材の特性に関心を持ち、自分の好きなデザインを考え、意欲的に制作に取り組むことができる。	彫刻刀の技法と木材の特性を理解し、木彫りの浮き彫りにふさわしいデザインを考えることができる。	彫刻刀の技法を習得し、木材の特性とデザインを生かした彫刻を仕上げるができる。	自他の作品を鑑賞して、木彫の特徴を理解した上で作品のよさを見つけ、味わい、今後の制作に生かすことができる。

#### 指導と評価の計画（16時間）

	主な学習活動	評価計画			
		評価規準・評価方法	関心	発想	技能 鑑賞
導 入	<p>《家紋について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葵紋印籠を見て、家紋について考える。</li> <li>○モチーフについて</li> <li>○デザインの派生について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家紋に興味を持って積極的に学習する。</li> </ul> <p>【授業観察】</p>  <p>[水戸三つ葵]</p>	○		
	<p>《デザインの考え方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鷹の羽紋を例にして家紋のデザインの展開を学習する。</li> <li>並び 打ち違い 丸型 変形等</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家紋のデザインの展開を理解しそれを自分のデザインに生かすことができる。</li> </ul> <p>【授業観察・テスト】</p>  <p>[変形の例－鷹の羽蝶]</p>		○	○

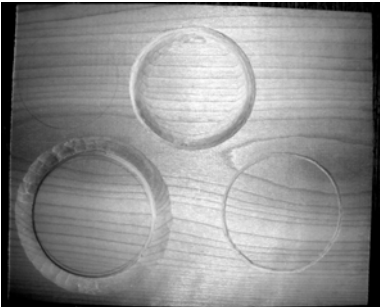


	<p>《ラフスケッチ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインは伝統的なものを用いても、オリジナルを考えてもよいことを説明してラフを描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな家紋を選び（もしくは考え）彫刻の下絵としてスケッチすることができる。</li> </ul> <p>【ラフスケッチ用紙】</p>	○	○		
展 開	<p>《下絵》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方眼トレーシングペーパーにデザインを製図する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを正確に製図できる。</li> </ul> <p>【下絵用紙】</p>		○	○	
	<p>《彫刻刀の使用法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称、持ち方、基本的な彫り方、安全な使用法を説明。</li> </ul> <p>(彫刻刀の学習プリント配布)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻刀の基本知識を理解しデザインに応じて安全に作業ができる。</li> </ul> <p>【作品・テスト】</p>	○	○	○	
	<p>《彫刻①地スキで高低差を作る》★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高低差は3mm以上の深さで。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを立体的にとらえて高低差を十分つけることができる。</li> </ul> <p>【作品】</p>	○	○	○	
	<p>《彫刻②表面の処理》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地スキがしっかりとできたら丸みをつけたり模様を彫ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインにあった表面処理を適切な方法で彫ることができる。</li> </ul> <p>【作品】</p>	○	○	○	
	<p>《やすりがけ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・#80,#120,#240,#320の順番で丁寧にやすりがけをする。</li> </ul> <p>(仕上げの学習プリント配布)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面に添って丁寧にやすりがけをすることができる。</li> </ul> <p>【テスト・作品】</p>	○	○	○	
	<p>《塗装》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オイルステインで塗装をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく塗料を使い塗装ができる。</li> </ul> <p>【テスト・作品】</p>	○	○	○	
	<p>《ワックスがけ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木彫ワックスでしっかりと磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧にワックス仕上げができる。</li> </ul> <p>【作品】</p>	○	○	○	
ま と め	<p>《自己評価カードの記入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードを記入して作品の裏に貼り付ける。</li> </ul> <p>※内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ家紋や自分の考えたデザインについて</li> <li>・作業の中で頑張ったところや苦勞したところなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品について反省点や評価点を具体的に記入できる。</li> </ul> <p>【自己評価カード】</p> 				○

<p>《鑑賞会、鑑賞カードの記入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの作品を全て並べて鑑賞し、良いと思った作品に鑑賞カードを記入する。</li> <li>・特に技術面、自分が作業を通じて気付いた苦勞や良さに気付かせる。</li> </ul> <p>※カードは後日、本人に渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスメートの作品についてよく鑑賞し、良いところを具体的に記入できる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【鑑賞カード】</b></p> 	
---	---	--

### 5 単位時間の指導と評価★

本時の目標： ・より立体的に彫刻を進めるための方法を知る。

- ・彫刻刀を使って安全に作業ができる。
- ・作業手順を理解し、制作に意欲を持って取り組む。

主な授業内容	評価規準と指導
<p>[彫りの解説]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻見本の板を見て同じ図でも立体にすると様々な彫り方があることに気付く。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">[彫刻見本板]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の彫刻では原則として切出し刀と平刀だけを使用することを伝える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">○十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻の進め方、彫刻刀の用途を理解できる。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">[作業風景]</p>
<p>[下絵の色分け]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下絵のデザインの前後関係をつかみ、段階ごとに輪郭を色分けする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">○十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの前後関係を理解し段階ごと適切に輪郭を色分けできる。</li> </ul>
<p>[彫刻の作業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番手前の段階の輪郭周りから彫り始める。</li> </ul> <p>※切り込みの角度に注意する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切出し刀で入れた切込みに向かって平刀で彫り下げる。</li> </ul> <p>※彫り下げは深さを測り、3mm以上を目標とする。</p> <p style="text-align: center;">○十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインに応じた彫り方を切り込みの角度に気を付けて彫ることができる。</li> </ul>

<p>↑外枠の円から始めると彫りの練習になる。</p>	<p>○おおむね満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻刀を使って安全に作業ができる。 〈努力を要する生徒への手だて〉</li> <li>・彫刻刀の持ち方に注意して個別に指導、なるべく大きく彫れる部分から始める。切れ味の悪い刃は研ぐ。</li> </ul>
<p>[片付け]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け 班ごとに役割分担して5分で片付ける。</li> <li>・分担例 机上、机の下、作品片付け、彫刻台片付け</li> </ul>	<p>○十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して最後まで後片付けができる。 〈努力を要する生徒への手だて〉</li> <li>・役割分担を指示し、不十分なところは、やり直しをさせる。</li> </ul>

## 6 考察と課題

### (1) 題材と学習活動

木彫によるレリーフは、平面だけでなく立体でもあり今回の課題はデザイン的な要素もある。基本的には素材を削り取っていく作業で、付け足しや後戻りができない小さな作業の積み重ねである。木彫は、時間をかけて作業をすることで完成度が上がる。つまり、時間をかけて素材に触れることで、生徒が自ら気づき工夫することにもつながる。

### (2) 教師による支援と評価

- ・ 平面的な見方と立体的な考え方をうまく示す。※彫りの見本板を示す
- ・ 数値など具体的な達成目標を示す。※地スキでは3mm以上彫る（ノギスで測る）
- ・ 道具をそろえる（彫刻刀、彫刻台）。手入れをする（彫刻刀を研ぐ）。
- ・ 学習指導案に示した評価規準に基づき、指導と評価の一体化を図る。

### (3) 成果

道具の整備、技術指導の徹底、具体的な目標づくりから、生徒の集中力、関心、作業効率が高まり、作品のレベルも高まった。また、ねらいどおりの作品を作ることのできた生徒たちは、次の作品への意欲に満ちている。以下は生徒の授業後の感想である。（ワークシートから抜粋）  
「使いにくい平刀を平丸刀に変えてくれるのがすごく助かりました。使いやすくなったので作業がすごく進むようになりました。」、「彫刻は小学校のときにもやりましたがこのように彫刻刀を使い分けるやり方は初めてしました。だからこの彫刻は大変だけどすごく楽しいです。」、「新しい彫り方とかをやっていてきれいにできたときは『楽しい!』とか思ったりしたし、授業の中でだんだんとできていく作品を見てやる気も出てきた感じです。」

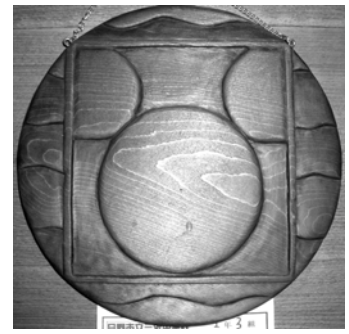
これらの成果から、「技術を向上させる」授業が、生徒にとって「心が躍る楽しい美術」を実現し、美術を好きになることにつながったと考える。

### (4) 課題

習得した技術を生かして、さらに発展的な授業の計画を立てるとともに、評価規準や評価方法の改善により評価への信頼性を高め、生徒の個性を生かすことが今後の課題である。

7 資料

・ 作品例



①伝統的な図柄（八重桔梗）②アレンジした図柄（三割桜に波紋）③オリジナル図柄



④文字を題材にした図柄 ⑤オリジナル図柄 ⑥シンプルな図柄（丸に三つ引き）

⑥のようなシンプルな図柄でも彫りをしっかりとすると見栄えのする作品になる。

・ 鑑賞カード

「木彫家紋」 鑑賞カード

[ ]さんの作品について [ ]より

作品の評価				
観点	点数	理由		
がんばり [意欲 25 点]				
デザイン [発想 25 点]				
彫りの深さ [技能 25 点]				
仕上げ [鑑賞 25 点]				
合計点[100 点]		<table border="1"> <tr> <td>                     評定[1～5]                 </td> <td></td> </tr> </table>	評定[1～5]	
評定[1～5]				

評定の出し方 0~19 = 1 20~49 = 2 50~79 = 3 80~89 = 4 90~100 = 5

作品に対してのコメント or 作者へのメッセージ



## VI 授業による研究

### iii 題材名 映像・写真「撮影・現像・鑑賞美術館体験」～わたしの母校～（3年選択）

#### 1 題材設定の理由

人は自分より遙かに優れた人格や技術に接したとき強く感動し、憧れ、自分もそれに近づきたいという夢や目標をもって学び始める。この心情は芸術だけではなく、様々な分野においても動機付けのきっかけとして働く。特に芸術においては、専門家の卓越した技能や高潔な人格に触れたり、心を動かされる作品と出会ったりするなどして得られる感動や憧れが「芸術を愛好する心情を育てる一つの重要な動機」になると考える。

学校における美術教師による指導のみならず、各地域の文化遺産・伝統文化・芸能・伝統美術工芸や美術館、博物館、専門的な芸術集団等とのパートナーシップを広げ、地域密着型の美術教育を積極的に取り入れることは、生徒の興味・関心を広げるきっかけになると思われる。

生徒の「心が躍る楽しい美術」では、「生涯学習及び豊かな感性と美の心の育成の基礎づくり」をねらいとして、「学校・地域の人材・地域の美術文化」の三者の連携による教育を目指すことが必要であると考え。その際、学習指導要領の目標、内容の定着に向けて確かな基礎教育を進めるとともに、その指導の過程で「人・もの・施設」とのパートナーシップを確立することが大切である。そして、それぞれのよさを生かして、芸術の視野と活動の地平を広げ、生涯教育の基礎となる知識、技能や愛好心や憧れ、感性などを育てる教育を確実に展開していくことが重要と考える。

そこで今回、研究テーマである「心が躍る楽しい美術」を創り出す切り口として、「新しい経験を通して視野を拡大させる」ことをねらいとした授業を設定した。そして、この取組を通して生徒がいろいろな経験をし、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

なお、現任校は、交通30分以内で東京都立写真美術館に向くことが可能な位置にある。そこで美術館のスクールプログラムを活用し、教室ではなかなか指導や経験させることの難しい「映像」の分野を、生徒と一緒に学び参加する本題材を設定した。

#### 2 題材の目標

今回の題材は、以下の点をねらいとして目標を設定した。いろいろな経験と様々な人やものに触れること自体をひとつの目標とする。表現方法についてはあまり制限を加えず、できるだけ自由な発想と表現ができるようにした。

- ・ 生徒が普段接することの少ない「人・もの・施設」から、様々な刺激と指導を受けることによって、興味・関心・意欲を高め、視野を広げる。
- ・ カメラの仕組みや機能を、モデルカメラの制作を通じて理解し、作品として表したい自分の心象に活用できるようにする。
- ・ 自分で現像を体験することにより、写真の世界の不思議さや楽しさ、美しさを体感して、作品を創造する喜びを感じる。
- ・ 美術館の写真展や自他の作品の鑑賞を通して、他者の思いを汲んだり優れた点や工夫を発見したりすることにより、自分の思いや意図（意味）を表現するために役立つものを得る。

### 3 育てる資質・能力

- ・ 興味・関心を広げ、意欲を高める力。
- ・ 表現方法を創造する力。
- ・ 経験することにより、作品を創造する喜びを感じる心。
- ・ 思いや意図（意味）を創造する力。
- ・ 他者の作品から作者の内面を感じ取る鑑賞力。

### 4 本題材における指導の流れと評価計画

本題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
進んで体験学習に参加して、興味・関心をもって鑑賞する。 自分らしい被写体を探して主体的に制作に取り組むことができる。	自分の思いの表現に適した被写体を豊かに発想し、構図を決め撮影できる。又、様々な現像表現を試みることができる。	カメラのしくみを理解し、モデルカメラを作り上げることができる。さまざまな機材や機能を使用して自己の表現に活用できる。	多くの作品を鑑賞し写真について理解を深め、自分の制作活動に生かすことができる。

#### 指導と評価の計画

	主な学習活動	評価計画				
		評価規準・評価方法	関心	発想	技能 鑑賞	
導入	<p>&lt;学芸員&gt;…主な指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真美術館はどんなところか、説明を聞く。</li> <li>・ 写真の歴史を理解する。</li> <li>・ モデルカメラの制作（美術館が用意したモデルキットを使用）</li> <li>・ ダンボールで作った巨大カメラの中に入り、映像のしくみを体感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館のパンフレットを見ながら、展覧会や資料室（図書パソコン）フィルムライブラリーの紹介等に興味・感心がもてる。</li> <li>・ 映像の今と昔。写真集や資料を鑑賞しながら。映像の種類についても学習する。</li> <li>・ モデルカメラの制作を通じて、カメラの仕組みと機能の理解を深める。</li> <li>・ 進んで体感し、理解を深める。</li> </ul>	○			
			○			○
			○		○	
			○			

<p>展 開 ①</p>	<p>&lt;美術教員&gt; ・フィルム撮影（白黒27枚） 「わたしの好きな母校」というテーマを写真で表現する。</p>	<p>・カメラのアングルの違いでおもしろさを発見する。 焦点を変えたり、大きさ、角度、明るさ、構図を工夫したり試してみたりできる。</p> <p>・被写体は、自分が三年間通った母校で、思いで深い場所を選択することができる。 (人物も可)</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	
<p>展 開 ②</p>	<p>&lt;学芸員・ボランティアスタッフ&gt; ・現像する。</p>	<p>・現像のしくみと制作手順を理解し、器具や薬品の取り扱いに注意を払うことができる。</p> <p>・自分の作品に最適な現像を施す。少しの時間差で作品の趣が異なるおもしろさを発見することができる。</p>	<p>○</p>		<p>○</p>	
<p>展 開 ③</p>	<p>&lt;写真美術館学芸員&gt; ・鑑賞① 展覧会「ラ・ダンス」鑑賞</p>	<p>・写真美術館で特別展として開催されている、世界各国のダンスをテーマにした現代写真展を鑑賞できる。</p>	<p>○</p>			<p>○</p>
<p>ま と め</p>	<p>・鑑賞② ・現像された自己作品の鑑賞 発表①：作品の自己評価</p> <p>発表②：本校の展示会で、作品の感想をつけ、展示発表。</p>	<p>・学芸員とスタッフを中心に現像された作品を前に講評を受け参考にできる。 本人より、全体を振り返り一言ずつ感想を發表することができる。</p> <p>・額を装丁し感想を添えて、校内の展示会で発表する。</p>	<p>○</p>			<p>○</p>

授業風景



学芸員



ネガチェック



最終ネガチェック



暗室



講評



できたて作品

## 5 単位時間の指導と評価

- 本時の目標
- ・ 指導員の意見を参考にして自分の思いが伝わる写真のネガを選択決定する。
  - ・ 現像の仕方と手順を理解する。
  - ・ 機具や薬品を正しく使えるようにする。
  - ・ 作品をひきたたせる明るさやカットで、A4判の大きさまで引き延ばしプリントする。
  - ・ 正しい後片付けの方法を学ぶ。

主な授業内容	評価規準と指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリントするネガフィルムを選択決定する</li> <li>○自分の思いが表現されていると思うネガを数枚、各自が選ぶ。</li> <li>○構図や光のおもしろいネガを指導員の方にアドバイスいただく。</li> <li>○被写体のおもしろさと写真としてのおもしろさが合致した作品1～2枚を最終決定する。</li> </ul>	<p>*十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の思いやねらった構図を発表できる。 【発想・構想】</li> <li>○人のアドバイスを聞くことができる。 【鑑賞】</li> <li>○自分の意志で作品決定できる。【意欲】</li> </ul> <p>(努力を要する生徒への手だて) →自分の作品テーマは何か、他の作品との比較から具体的な違いを指摘することで気付かせる。(美術教員)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現像の仕方と手順を理解する。</li> <li>・ 機具や薬品の使用を正しく使えるようにする。</li> <li>○図解したプリントを用意し、暗室に入る前に学習する。</li> </ul>	<p>*十分満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正しく理解し、作業を一人で進めることができる。 【意欲・技能】</li> </ul> <p>(努力を要する生徒への手だて) →的確に指導員がアドバイスしていくが、手は出さないように配慮する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品をひきたたせる明るさやカットで、A4判の大きさまで引き延ばしプリントする。</li> <li>○現像する機械が一人一台割り当てられるので、二台に一人の指導員がついてアドバイスする。</li> <li>○思いとおりにプリントできなかつた生徒には、何が物足りないかはっきりさせた上でもう一度現像し直し、失敗作と比べられるようにする。</li> <li>・ 正しい後片付けの方法を学ぶ。</li> </ul>	<p>初めての体験であるが、生徒が自信をもって作業を進めていけるように、作業の各ポイントでの確認をこころがける。 (二台に一人ずつ指導員が付く)</p>

## 6 考察と課題

### (1) 題材と学習活動

生徒の多くは、写真を撮るのも撮られるのも好きである。それは、インスタントカメラや使い切りカメラ、カメラ付携帯電話などが身近にあり慣れているからであろう。絵を描くことに難色を示す生徒でも、写真に対する抵抗は少ないため、興味・関心を引き出しやすい題材といえる。

美術の教科書2・3年の下には、パソコンやデジタルカメラなどを用いた「映像」の分野が示されているが、必修の授業において本格的に「映像」を扱うことは難しい。そこで、選択の時間や参考資料の作成など人数が少ない時や、時間的な制約を受けにくい場合に取り扱うことも一つの工夫である。

### (2) 教師による支援と評価

生徒が自信をもって作業を進めていけるように、作業の各ポイントでの確認をこころがけた。また、自分の作品テーマは何か、他の作品との比較から具体的な違いを指摘することで気付かせるようにした。

評価については、学習指導案に評価規準に基づく評価計画を示し、授業を通して生徒の個性を生かす評価を心がけた。

### (3) 成果

今回の授業のように専門家から指導を受け、今までに未体験の体験をする試みでは、間違いなく生徒の心は躍ったと考える。それは、写真が浮かび上がった瞬間にあがった歓声からもよく分かる。また、学芸員から解説を受けながらの鑑賞では、専門的な知識に触れることができ、満足した表情で美術館の中を歩いた。そして完成作品については、生徒たちが期待した以上の成果が得られた。これらの成果から、「いろいろな経験をする」授業が、生徒にとって「心が躍る楽しい美術」を実現し、美術を好きになることにつながったと考える。

### (4) 課題

- ・ この授業を継続するためには、周囲の手厚い支援が不可欠である。
- ・ 安全面や費用及び他の生徒との授業時間の調整などの問題がある。
- ・ 時間割編成上の様々な制約から、二時間続きのプログラムが困難である。
- ・ 教師として、かなり細かいプロデュース能力が要求されることから、美術科の教師相互のネットワークを広げる必要がある。

## 7 資料

- ・ 過去に協力をお願いした美術館

平成12年 東京都庭園美術館（目黒）…アールデコ様式建築と宝飾品（鑑賞）

平成13年 東京都写真美術館（恵比寿）…クレイアニメーション（制作）東京大学教員指導

平成14年 東京都美術館（上野）…日展鑑賞

ブリジストン美術館（東京）…印象派鑑賞

平成15年 東京都写真美術館（恵比寿）…映像体験・常設展鑑賞

平成16年 国立西洋美術館（上野）…常設展・マティス展＝スクールプログラム鑑賞

## Ⅶ 研究のまとめ

本研究では「心が躍る楽しい美術 ～個性を生かす指導と評価～」について、三つの授業研究による実践的な研究により、仮説の検証を行った。生徒が美術を好きになるための三つのアプローチ、すなわち「個性を発揮する」「技術が向上する」「いろいろな経験をする」授業の取組を通して、生徒がどのように変容したか、以下にまとめる。

### 1 成果と課題

#### i 「個性の発揮」色鉛筆を使ったデッサン「自分よりも自分らしい自画像」第3学年

「自分よりも自分らしい」自画像を描くことをテーマとして、生徒が生まれてから現在まで最も気に入った写真をモチーフとした。生徒が自分らしい表現をすることを通して、達成感や自己肯定感を体感させる。さらに自らをモデルとすることにより「自らがかけがえのない存在である」ということへの理解を深めさせる。この取組を通して、生徒が個性を発揮し、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

##### (1) 授業における成果

- ・ モチーフを、写真にすることにより、自らの直接的な姿から一定の距離をおき、客観的に観察させることが可能になり、集中して制作活動に取り組ませることができた。
- ・ デッサンについては、1年次の授業で基礎的な技術を身に付けており、色鉛筆の色の違いによる表現方法やタッチの工夫等、発展的な指導が可能であり、3年間を通した系統的な指導の重要性を再確認することにもつながった。
- ・ 鑑賞カードを工夫することで記入が容易になり、多くの生徒が作品のよさを見付けプリントに記入し、それを伝えるという経験ができた。
- ・ 生徒たちは工夫することの重要性を理解し、工夫を積み重ねることによって得られる達成感や充実感を体感することができた。

##### (2) 今後の課題

- ・ 表現活動における個性への理解は、一時的なものになる恐れもあり、より日常の生活に根ざした個性への理解を目指す授業展開が必要である。
- ・ 美術の授業における個性の発揮だけでなく、これを学校生活全般にまで広げ、自他の個性の大切さを理解させるという、長期的で粘り強い指導が必要である。
- ・ より効果的な実践例を提示できるように、作例の数を増やしたり、言葉かけの方法を工夫したりする必要がある。
- ・ 授業者があまり細かく指導しすぎると、自由に記入したり発言したりする意欲を阻害することがあるため、ポイントとなる事項に絞ってタイミングよく話し、後は我慢強く生徒自身の活動を見守ることが、主体的な美術の能力を育てることにつながる。
- ・ 評価方法については、さらに一層の工夫・改善が必要である。

#### ii 「技術の向上」木彫「家紋」1年生

技術の向上を通して、自分の作品にあった表現ができるようにする取組である。じっくりと「彫ること」に的を絞り、彫ることに集中し、深く、丁寧に仕上げていく過程から、木という

素材の良さに気付かせる。モチーフとした「家紋」は、我が国に古来より伝わる日本の伝統的な意匠であり、普段から目にすることも多く、限られた時間で、木彫に適したシンプルなデザインを決めることができる。小学校で使う機会の少なかった、切り出し刀と平刀を用い、安全で正しい彫り方を、初期の段階で徹底的にマスターするように指導する。見本や資料を活用して、わかりやすく基礎から彫りの技術を教えていくことがポイントである。この取組を通して、生徒が技術を向上させ、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

#### (1) 授業での成果

- ・ 「家紋」をテーマとすることで、木彫に適したシンプルなデザインを容易に決定できた。
- ・ 切り出し刀と平刀だけを使用し、集中して深く彫ることができた。
- ・ 彫刻刀の正しい使い方を、教師の実演などで丁寧に指導することで、意欲が高まった。
- ・ それぞれの進捗で具体的な達成目標を示すことで、時間をかけて彫ることに集中できた。

#### (2) 今後の課題

- ・ 次年度以降、発展的な木材加工作品に取り組んだ際にデザインを考える力を、鑑賞カードなどの工夫で身に付けさせる。
- ・ 作業の早い生徒と遅い生徒との進捗の差を調整する。
- ・ 評価方法については、さらに一層の工夫・改善が必要である。

### iii 「いろいろな経験」 映像・写真「撮影・現像・鑑賞美術館体験」 3年選択

「生涯学習及び豊かな感性と美の心の育成の基礎づくり」をねらいとして、「学校・地域の人材・地域の美術文化」の三者の連携による教育を目指した。「新しい経験を通して視野を拡大させる」ことをねらいとした授業として、美術館のスクールプログラムを活用した。この取組を通して生徒がいろいろな経験をし、より一層「美術を好きになる」ことができると考えた。

#### (1) 授業での成果

- ・ 生徒が普段接することの少ない「人・もの・施設」から、様々な刺激と指導を受けることによって、興味・関心・意欲を高め、視野を広げた。
- ・ カメラの仕組みや機能をモデルカメラの制作を通じて理解し、作品として表したい自分の心象に活かした。
- ・ 自分で現像を体験することにより、写真の世界の不思議さや楽しさ、美しさを体感し、作品を創造する喜びを感じた。
- ・ 美術館の写真展や自他の作品の鑑賞を通して、他者の思いを汲んだり優れた点や工夫を発見したりした。

#### (2) 今後の課題

- ・ この授業を継続するためには周囲の手厚い支援が不可欠である。
- ・ 安全面や費用の問題、他の生徒との授業時間の調整など、問題点が多く残されている。
- ・ 時間割編成上の様々な制約から、二時間続きのプログラムが困難になってきている。
- ・ 教師として、かなり細かいプロデュース能力が要求されることから、美術科の教師相互のネットワークを広げる必要がある。
- ・ 評価方法については、さらに一層の工夫・改善が必要である。



## 2 考察と今後の課題

生徒が美術を好きになるために「個性を発揮する」「技術が向上する」「いろいろな経験をする」という三つのアプローチから、授業の取組を通して、どのような成果があったか、また、今後さらに解決すべき課題は何か、以下に考察する。

まず「個性を発揮する」取組では、「自画像」という題材を選び、生徒が写真をモチーフとして自分自身の姿を描くということから、自らの姿から一定の距離をおき客観的に観察し、集中して制作活動に取り組ませることができた。個性的な表現を体験させることを通して、生徒たちは工夫することの重要性を理解し、工夫を積み重ねることによって得られる達成感や充実感を体感することができた。また、鑑賞会における学習を通して、多くの生徒がクラスメートから評価され自信をもつことができた。今後はさらに、技術面において一定の水準に達していない生徒に対して、多くの表現方法を提示して生徒が工夫しやすい環境を整えるなど、実践的な指導を重視する必要がある。また、評価規準や評価方法の改善により、評価への信頼性を高め、生徒の個性を生かすことが課題である。

次に「技術が向上する」取組では、「木彫」という題材を選び、時間をかけて作業をすることを通して技術を向上させることができた。木彫では、時間をかけて作業をすることを通して技術力が向上し完成度を高めることができるため、素材に触れることから自ら気付き、工夫する力を身に付けることにつながった。今後はさらに、制作の実演をした上で理論も説明することにより、平面的な見方と立体的な考え方を効果的に示すことが必要である。また、進度の差が生じる状況を解決するとともに、評価規準や評価方法の改善により、評価への信頼性を高め、生徒の技術力を向上させていくことが課題である。

さらに「いろいろな経験をする」取組では、近隣の美術館と連携して、モデルカメラの制作から「わたしの好きな母校」というテーマで写真の撮影や現像を体験する題材を選び、必修の授業において取り扱うことの難しい題材を体験させた。「写真」は身近で親しみやすい題材であり、絵を描くことに難色を示す生徒でも抵抗が少なく、興味・関心を引き出すことができた。また、選択の時間の活用等、時間割上の取扱いの工夫や、学芸員と連携して専門的な知識に触れさせるなどの取組により、生徒の満足度を高めることができた。今後はさらに、授業を継続させるための周囲の手厚い支援を募るとともに、安全面への配慮や費用の確保、他の生徒との授業時間の調整等、細かいプロデュースが不可欠であるため、美術科の教師相互のネットワークを広げる必要がある。また、評価規準や評価方法の改善により、評価への信頼性を高め、生徒の経験を広めていくことが課題である。

以上のような授業研究を通して、教師による「個性を生かす指導と評価」が実践され、生徒の「心が躍る楽しい美術」が実現された。そして、生徒の望ましい変容を確認することができたことから、研究仮説の有効性が実証されたと考える。

今後の課題として、さらに一層、生徒の「心が躍る楽しい美術」の達成度を高めていくために、「学習指導案に位置付けた評価計画の精選」や「進度の異なる生徒に対する指導方法の改善」などについて、「個に応じた指導の一層の充実」という共通テーマに照らして、研究を深めていく必要がある。

平成17年度 教育研究員名簿（ 美術 ）

区市町村名	学 校 名	氏 名
墨田区	立花中学校	松井 祐子
品川区	荏原第三中学校	西村 真喜子
大田区	大森東中学校	鹿倉 美帆
大田区	蓮沼中学校	◎ 落合 完太
練馬区	石神井中学校	三浦 秀樹
足立区	第七中学校	高田 哲哉
日野市	三沢中学校	○ 内田 善人

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 市川 治郎

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷